

行政調査特別委員会行政視察結果報告書

平成27年12月3日

報告者	第2班〔会派：成和〕		
参加者	班長 佐藤和之	副班長 和田公伸	山越梯一
	齋藤敏夫	生井一郎	

◆視察項目

実施年月日	平成27年10月26日（月）～ 27年10月29日（木）		
視察目的	1. 野球のまち阿南推進事業について	徳島県阿南市	
	2. 過疎債を活用した事業・取り組みについて	徳島県三好市	
	3. 「讃岐もち麦ダイシモチ」普及促進事業について	香川県善通寺市	
	4. 伝統的ものづくり支援事業について	香川県高松市	
視察概要	徳島県阿南市	*人口：76,063人 *面積：279.54km ² *特徴：徳島県南地域の経済・文化の中核都市。LED産業を筆頭とした最先端工業の立地と産官学連携によるLEDを利用した「光のまちづくり事業」に取り組む。また、2010年に「野球の町推進課」を設置し、全国規模の大会開催や合宿誘致を推進。	
	徳島県三好市	*人口：29,951人 *面積：721.42km ² *特徴：三野町・池田町・山城町・井川町・東祖谷山村・西祖谷山村が合併して2006年3月に市制施行。四国のほぼ中央に位置し、市域の9割が山地。中央部を流れる吉野川など自然豊かな地。	
	香川県善通寺市	*人口：33,817人 *面積：39.93km ² *特徴：江戸時代に四国霊場巡礼が盛んになり、善通寺や金倉寺付近の集落は門前町として発展。戦後、陸軍用地に陸上自衛隊が設置され、国立病院や大学などの誘致が進み、現在の都市形態の基礎が固まった。	
	香川県高松市	*人口：419,429人 *面積：375.17km ² *特徴：古くから高松藩の城下町として発展し、風光明媚な自然と街のたたずまいがほどよく調和する全国有数の美観都市。国の出先機関や大企業の支店が集積する四国の中心都市。	

◆視察結果（個別票）

個別項目	野球のまち阿南推進事業について 【徳島県阿南市】			
	視察先担当課	産業部野球のまち推進課	添付資料	有・ <input type="checkbox"/> 無

I 視察要旨

全国で初めて野球を冠にした「野球のまち推進課」を市が設置して5年。ユニークな取り組みで成果を挙げている。

阿南市には四国電力と電源開発の発電所があり、発電所は2年に一度定期検査が行われ、検査のための作業員500－600人が3か月間阿南市に滞在し、定期検査が実施される時はとても大きな経済効果があり、作業員の方が500－600人宿泊できるということは、同規模の選手を集めたスポーツ大会が開催できるとの思いがあった。

以前から盛んであった野球を産業の一つとして捉え、県内外から野球を楽しむという目的を持った「滞在型観光客」の誘致を目指す。

市が柱に抱えるのは、還暦を過ぎた選手らの大会の開催と、学生・社会人野球チームの合宿の誘致、本格的な野球を楽しんでもらう野球観光ツアー（県外チームに対戦相手・球場・観光地の紹介）などの事業を行っている。また、審判員・放送員・記録員など運営に要するスタッフの育成事業にも取り組んでいる。

注目すべきは、どの事業もアマチュアを対象にしている点、そこからは地域再生のヒントを見いだせるかも、との思いで視察先を選定した。

II 事業の成果・課題

野球による活性化策となると、プロの試合開催やキャンプといった事業が目立つが、プロ興業のような派手さはないものの、県内外から訪れるチームは着実に増えている。

事業を進める上で重視しているのが、もてなしである。試合にはプロ仕様のスタジアム（アグリあなんスタジアム）を使い、電光掲示板に名前を表示する。うぐいす嬢のアナウンスもある。プロさながらの演出が野球好きの心をつかんでいるようだ。

また、地元の60歳以上の女性でつくるチアリーディングチーム「ABO60」が応援をしたり、交流会に阿波踊り連が出向いたり。その歓待ぶりには誰もが感激するという。

これは、地域一体となって受け入れ態勢を整えてきた成果といえよう。しかも、住民が試合の運営や応援に汗を流し、大会を盛り上げることで地域ににぎわいと活力をもたらしている。住民の活動の場をさらに広げる期待が持てる。

県外への積極的な売り込みも見逃せない。11年には北信越5県の高校野球連盟の推薦を取り付け、選抜大会出場校の直前合宿地になった。この春、合宿した福井県の敦賀気比高が選抜大会で初優勝し、市全体が沸き立ったのは記憶に新しい。

市によると、訪問チームは2008年度の61チームから2014年度は147チームに増加。野球関連の宿泊者も450人から3264人に膨らんでいる。経済効果は事業費約3千万円で、年間一億円以上とも試算している。

さらに、今年市が5億円で整備した屋内練習場が完成をした。雨天でも練習が可能になるため、長期滞在する社会人チームの誘致に乗り出し、より大きな経済効果が期待できる、特に力を入れたいと担当課の説明であった。

課題としては、大規模大会では市内外の8グラウンドを使うため、審判員やうぐいす嬢が足りない。養成講座を開いているが、効果はあまり上がってこない。

問題は宿泊施設で、社会人の合宿には、シングルルーム30室以上と大食堂、大浴場を備えたホテルが理想とされるが、市内にはない。県内の野球関係団体から協力したいとのことなので、連携して大会運営をサポートできれば、とのことであった。

III 視察所見

きっかけとなったのが、長野県上田市で開催される「お父さんの甲子園・全日本生涯野球大会」。全国から約200の還暦野球チーム、約4000人の選手らが参加し、そのほとんどが上田市や千曲市の温泉宿に宿泊し、大会が開催されるのは温泉客が少ない6月。2年に一度発電所の検査のための作業員500-600人が約3か月間阿南市に滞在し大きな経済効果があるが、県外からの観光客はほとんどなかったため、これらを視察した阿南市の職員が熱い思いを市長に提案した。今では野球のまち推進事業も充実してきており、野球が経済効果を生み出し、野球のまちとしての認識が市民全体に浸透してきた。

やはり、日光市においても観光の閑散期も含め、スポーツ推進事業をさらに進める必要性を強く感じたが、そのことが大きな経済効果を生み、地域や市民全体に認識・浸透していかななくては、心からのもてなしが生まれないと実感した。

さらに、旅館組合や観光協会など、特定の業界だけでイベントを開催すると継続しないことが多く、イベントの主催者が毎年入れ替わっても、結局は続かない。しかし、自治体や行政が中心となって連携体制を整えて実施すれば、いろいろな応用も効き、素晴らしい取り組みに成長するのだと実感した。

◆視察結果（個別票）

個別項目	過疎債を活用した事業・取り組みについて 【徳島県三好市】		
	視察先担当課	財政課	添付資料 有・ <input type="checkbox"/> 無

I 視察要旨

平成18年3月1日 旧・三野町、池田町、山城町、東祖谷山村、西祖谷山村の3町2村が合併して市制施行となった三好市。

面積721.43km²・人口（国勢調査）29,951人

市全体が過疎地域の指定をされている。

日光市内の過疎地域自立促進の参考とするため研修を行った。

II 事業の成果・課題

研修内容の説明は、財政課長及び課長補佐の2名。

はじめに平成26年度決算内容の説明を受ける。関心を持ったのは歳入、歳入総額28,152百万円の内訳は自主財源18%、依存財源82%の構成割合であったこと。

次に説明を受けたのは、過疎対策事業の概要、過疎対策の考え方、過疎対策事業債の概要（対策事業など）。

過疎対策事業について（事業債の増額、地方創生特別分の創設等の内容について）

過疎対策事業債（ソフト分）について（この事業債活用により市町村の実情に応じたきめ細かな対策が可能としている。）等々

終わりの説明は、前記の「過疎対策事業の概要」の中身を理解したうえでの三好市の過疎対策事業債を活用した取り組みでした。内訳は多くの施設に過疎対策債が充てられていること。平成26年度に於ける過疎債（ソフト）の発行限度額390.6百万円に対し、327.4百万円が発行された。これにより、新規事業20、継続事業59、計79項目の過疎ソフト事業を実施したとの説明があった。

III 視察所見

財政担当課が過疎対策の考え方をよく理解して積極的に過疎対策に取り組んでいると感じた。

歳入に於ける依存財源の大きさに注目をした。

地方交付税 13,253百万円（47%）

国県支出金 4,847百万円（17%）

地方債	4, 192百万円 (15%)
その他の依存財源	650百万円 (3%)
計	23, 042百万円 (82%)

積立金の総額が平成17年度45億円から平成26年度は134億円増の179億円となったことにも注目した。

◆視察結果（個別票）

個別項目	「讃岐もち麦ダイシモチ」普及促進事業について 【香川県善通寺市】		
	視察先担当課	産業振興部	添付資料 有・ <input type="checkbox"/> 無

I 視察要旨

平成9年に善通寺市で誕生したもち麦「ダイシモチ」を平成25年度からかがわ農商工連携ファンド事業として商品開発し、地域ブランド化に取り組んでいる。

事業主体は、善通寺まちづくり会社「株式会社まんでがん」。連携体の精麦会社及び農事組合法人「アグリくしなし」とともに、焼酎・うどん・丸麦ごはんの加工など30種のダイシモチ商品の開発、販売を行い善通寺市の特産品化を進めている。

麦の作付面積も平成25年の3ha(15t)から平成27年は20ha(70t)と急激に拡大している。特に注目すべきは、市の産業振興部営業課長として民間人である「株式会社まんでがん」の役員を中心人材に据え、“非常識の中から新たな常識は生まれる”という視点のもと、精力的に営業・販売に力を入れており、約6千万円の経済効果をもたらしている。

販売先の開拓

- ① マスコミに数多く取り上げられ、「おしゃべり広場」以外での販売先を開拓。
- ② 量販店を避け、売り場占有率の高いところに営業活動。
 - (1) ホームセンター
 - (2) ドラックストア
 - (3) 美容院
- ③ 大手企業社食やレストランを開拓
- ④ ニッチ戦略と宅配

II 視察所見

日光市としても積極的に食のブランド開発に取り組みつつあるが、このような「公民連携」を主軸に、地域の活性化につなげていければと感じました。

◆視察結果（個別票）

個別項目	伝統的ものづくり支援事業について 【香川県高松市】		
	視察先担当課	創造都市局産業振興課	添付資料 有・ <input type="checkbox"/> 無

I 視察要旨

高松市での伝統的ものづくり支援事業は市長マニフェストによって平成 26 年 3 月に振興条例が制定され、以降推進された事業であります。高松市としては今まで築かれた歴史や地域に根ざした文化を大切な地域資源として守り、更に魅力あるものに発展させるため事業展開されておりました。

市としても「伝統的ものづくり」に関して同様な歴史文化が存在するため、今回調査致しました。

II 事業の成果・課題

高松市の伝統的ものづくりは 3 大地場産業である盆栽・漆器・石製品を代表として、その他伝統的工芸品など数多く持たれ、その伝統的ものづくりを大切な地域資源として受け継がれてきました。しかし近年の生活様式の多様化に伴う個人消費の変化や各業界における後継者問題などが挙げられ厳しい局面になりました。そこで平成 26 年 3 月に制定された「高松市伝統的ものづくり振興条例」によって高松市民全体で伝統的ものづくりの大切さや必要性を認識することによって地域全体で「ものづくり」を支えていく環境を生み出すことになりました。

事業内容としては条例の基本理念をもとに市が主体となって市民、事業者、関係団体、教育機関の役割を明確にして、その連携を上手く図れるよう調整をして取り組まれております。

施策としては「人づくりの推進」「事業環境の整備」「事業者等に対する支援」「普及啓発」「ブランド力の向上・販路開拓」「表彰」と 6 つの基本施策に取り組み振興事業を展開されておりました。

主な事業は年数回開催の審議会や団体へのイベント補助、体験教室。新規事業として海外へのトップセールス事業（県と連携）や企画展示セミナーなど多くの事業が展開され多くの市民に理解され、団体と連携し市場拡大、消費拡大へと成果が挙げられておりました。

課題としては、制定 2 年目ということで今後更に振興条例のもと様々な取り組みを進めていき、創造都市推進局の中で如何に横断的に他部局と連携をはかり事業拡大へとつなげることが必要と言われておりました。

III 視察所見

「高松市伝統的ものづくり振興条例」により市全体で「ものづくり」に理解

と関心を示し協力することによって、今まで築き上げられた地域に根ざされた歴史文化が守られ今後も受け継がれ、そして更に魅力のものとして発展されると考えられます。

当市としても多くの伝統的なものづくりが存在し、歴史と伝統文化に縁が濃い自治体としてまちづくりが進められております。これから問題と課題があるのであろう「市の伝統的なものづくり」を今後調査して高松市の事業を研究すべきと思います。